

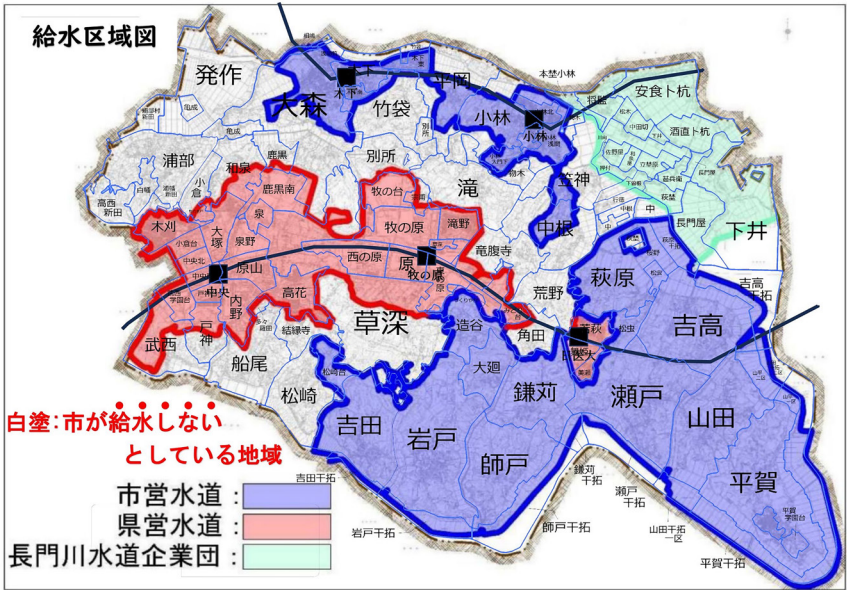
# 給水区域を拡大せよ!

## 板倉市政では、未給水地域(図参照)の住民は一生水道水が飲めません!

2024年度印西市水道事業会計予算案が2月8日に発表されたが、給水区域拡大に関する予算は計上されず、水道未給水区域でのアンケート調査のみの計上となった。「給水区域拡大に関する請願書」が市議会で採択されたにも関わらず、請願の趣旨を理解しない板倉正直市長と市執行部の動きに対し、市民から「いつ給水区域が拡大されるのか!」の批判がさらに高まりそうだ。

発表された水道事業会計予算案だが、具体的には、給水区域内と区域外の需要や地形、水質などの地域特性などの現状を調査するという。

なぜ給水区域拡大方針を決めてから住民意向調査をしないのか!? 給水区域の拡大をする気のない執行部の文章一つで、市民を誘導することができてしまう。やはり給水区域



近いうちに必ず来ると言われている首都直下型地震、災害から街を守るためにも消火栓の普及も重要である。本誌の新しい井戸からマンガン検出

印西市教育総務課によると、市立本塾小学校(同市中根)では、以前使用していた井戸の井戸水から異臭や濁りなどのトラブルがあったため、昨年7月から8月にかけて別の地下水脈から新しく井戸を掘ったが、水質検査をしたところ新しい井戸の井戸水から重金属のマンガンが水質基準値100mg/Lを超えて検出されたという。同課では、追加で除マンガン装置を取り付ける工事を2月中に行うという。怖いのは、役所のあるものの「設置して終わり」ではなく、毎年検査を必ず実行していただきたい。

現状では井戸水は手洗いなどには使えるが飲料用には使えないため、同課では同小に向けて飲料水用のペットボトルを支給して対応しているという。

同課では「除マンガン装置の取り付け工事が終わってから、改めて水質検査をする」として、新学期が始まる4月頃からの使用開始を見込んでいる。

同小学校は旧本塾第1小学校校舎として1981年に建設。当時は市街化調整区域のため、水道が引かれなかったという。

2月16日の市議会会派代表質問で、中沢俊介市議は同小に市営水道の給水を訴えたが、大木弘教育長は「水道事業者と協議していきたい」と述べ、事実上のゼ口回答だった。

# 多選・高齢批判を一蹴 厳しい質問には 回答拒否!

7月14日告示、21日投票の印西市長選挙を前に、現職の板倉正直市長(77)が立候補を表明しており、板倉氏で3人目。

会見で板倉氏は、2月9日の印西地区環境整備事業組合議会で可決された、次期クリーンセンター建設工事契約に触れ「私はここ(クリーンセンター)完成)まで見届ける責任がある」と述べ、改めて4期目への強い意欲を示した。

主な政策に、小中学校の給食費無償化、大規模化した市立原小学校の分離新設図書館を千葉ニュータウン地区に新設など、いわゆる「箱モノ」系の公約を中心に掲げた。2010年に大規模改修を実施した同市大森の市役所庁舎に関し、千葉ニュータウン地区への市役所移転も言及した。

板倉氏は1946年生まれ。成田高校卒。1975年に旧印西町議に初当選し、2012年の市長選で初当選。3期12年を務めた。現在77歳の板倉氏は、千

は平時でも災害時でもリスクは高く、2016年の熊本地震では地下水脈の変化により、地下水位の低下や湧水の枯渇が発生。井戸水のみで依存するリスクが顕著になった。

子どもたちに安全な飲料水を供給する点からも、メイン水源である上水道整備は不可欠だが、3期12年の板倉市政では一向に顧みられなかった。未給水地域の住民は「板倉市政下での3

期12年は「失われた12年」だ。12年もあれば未給水地域への水道整備ぐらいはできたはずだったのではないか。

板倉市長以外で市長選に出馬表明をしている候補者が当選すれば即100%給水区域の拡大を行うことだろう!胃がんの原因は、井戸水を飲んだことによるピロリ菌が原因であるのは常識で、人々が生きる上で大切な水問題。当然である。

葉県内37市の市長の中では最高齢ともいわれる。4期目が満了する頃には81歳を迎え、後期高齢者の板倉氏が激務の市長職に耐えられるか不安視され、加齢による衰えで実務面に支障が出ないか懸念される。

これまで板倉氏は公の場での原稿の読み間違いが散見された。昨年11月13日にNECグリーンロケッツ東葛(GR東葛)のレメキ・ロマノ・ラヴァ主将が印西市役所を表敬訪問した際、あいさつ原稿が手元にあっても、レメキ主将を「メレキ主将」、デイビジョン1を「テレビジョン1」と読み間違えた例がある。

多選・高齢批判に対し板倉氏は、米国のバイデン大統領やトランプ前大統領を引き合いに「まだまだ4年引き合いに」などと消極的な姿勢を見せた。

入札問題で説明責任果たさず 板倉市長「部長が答弁した通り!」

2月16日の印西市議会会派代表質問で中沢俊介議員(至誠)が、印西市内の入札制度の問題点について質問したところ、板倉正直市長が「部長が答弁した通りです!」と声を荒らげる一幕があった。

印西市吉田地区に建設予定の次期クリーンセンター建設工事請負契約で、入札価格が別の企業グループより約28億円高い「JFEエンジニアリング」グループが落札者に決まったが、同社は過去に現クリーンセンター13号焼却炉増設工事に関し、談合を行い、印西地区環境整備事業組合から2010年12月に損害賠償請求裁判を起こされた経緯がある。過去に談合事件を起こした企業が入札に参加できるのか、板倉市長の見解

質疑応答で板倉氏は、自身の得意な話題では饒舌に答える一方で、次期クリーンセンターの建設工事契約に関して市民有志が住民監査を請求した件に話が及ぶと「知りません」と回答を拒否。花火大会の復活に当たっては「公園法の制約などがあるため難しい」などと消極的な姿勢を見せた。

しかし、海老原一議長が暫時休憩を入れ、中沢議員に対し「通告内容から外れている。一部事務組合の事案ですので配慮をお願いしたい」と通告。

議事再開後、田口浩企画財政部長が「過去に談合に関わって指名停止を受けた事業者が、指名停止期間ではない、入札の参加資格に合った事業者であれば、入札に参加することを拒否することはできない」と答弁。中沢議員が改めて板倉市長の説明責任を質したところ、板倉市長が「部長が答弁した通りです!」と声を荒らげて答弁した。

市民への説明責任を事実上放棄した板倉市長の対応に、市民からの批判が高ま



自立訓練(生活訓練)事業所 **みらいONETeam**

**就労支援サービス4月から始動!**

生活リズムを整える方

就職を目指す方

新しいみらいへ!

Tel0476-33-7574

〒270-1335 千葉県印西市原 1-2 BIGHOP ガーデンモール印西

対象者: 引きこもりの方 精神障がい者 身体障がい者 知的障がい者